

「営業外損失（持分法による投資損失）の計上及び2018年3月期通期業績予想の修正」

「関係会社株式評価損（個別決算）の計上」

テレフォンカンファレンス 主な質疑応答

1. ジャパン マリンユナイテッド株式会社（以下、JMU）の決算報告に起因する営業外損失について

(1) 損失の内容は？

- ・ 2018年1-3月期の為替が円高水準だったことにより、JMUの外貨建て手持ち工事の採算悪化に伴う受注工事損失引当金計上ならびに、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、その相当部分を取り崩したことに起因する、持分法による投資損失。

(2) 現在工事進行中のLNG船の状況は？

- ・ 2017年10-12月期に計上した持分法による投資損失の大きな要因は、LNGタンクの防熱工事だったが、その防熱工事は山場を越え、今回の業績予想悪化に与えた影響はさほど大きくない。
- ・ 今後実施される、1船目のコミッショニングの進捗を注視する必要があるが、1船目が完成すると、2船目以降は習熟効果が働くので、その後の業績予想は容易になると考えている。

(3) JMUに対する支援の考え方は？

- ・ 2019年3月期の黒字化達成に向けて、再生プランに則って新年度を開始したJMUに対し、IHIも株主として、競争力強化のための施策実行に全面的に協力する。

2. 採算が悪化した北米プロセスプラントについて

(1) 今回見込んだ悪化額と現在の工事進捗状況は？

- ・ 資源・エネルギー・環境事業領域の2018年3月期営業利益予想について、前回予想から悪化する130億円のうち、140億円が本工事で見込んだ悪化額であり、ボイラ事業の好転が10億円。
- ・ 工事進捗率は原価発生ベースで57%程度。納期を遵守するためのキャッチアップ費用を計上しているため、大きな工事遅れが今後発生するとは考えていない。

(2) 今後さらに損失が拡大する可能性は？

- ・ IHI本社から派遣したチームと有識者による詳細なモニタリングを実施し、工事計画の精査を行った結果、工事内容・物量・工程などの正確な見積りが可能になり、工事・工程の見える化が進んだ。したがって、工事の進捗状況を引き続き注視する必要がある一方で、今回計上したコストの範囲内で工事が進行することを期待している。

3. コーブポイント天然ガス液化設備の工事遂行状況とコストの変動は？

- ・ 4月上旬にお客さまが商業運転開始を宣言し、引き渡し完了した。したがって、今回（2018年3月期）の業績予想修正ならびに2019年3月期の業績への影響は無い。

4. 民間向け航空エンジン事業について

(1) 補足説明資料 P.5 に記載されている、航空・宇宙・防衛事業領域の増減要因の内容は？

- ・ すべてが民間向け航空機エンジン事業に関する内容であり、具体的には以下のとおり。
  - ・ 売上高の増減 +50 億円：採算性が悪い量産初期段階のエンジン販売台数が想定よりも減少したことによる増益
  - ・ 工事採算の変動 +40 億円：スペアパーツ採算改善増加を中心とした増益
  - ・ 為替の変動 +10 億円：実勢の為替水準を反映

(2) PW1100G-JM の 2018 年 3 月期の販売台数実績および 2019 年 3 月期の販売台数予想は？また、販売台数増加が業績に与える影響は？

- ・ 2018 年 3 月期は 250 台程度であり、期初予想はもちろん、直近の予想に対しても少ない台数となっている。2019 年 3 月期は 700 台を超えることが見込まれる。
- ・ したがって、期初予想では 2018 年 3 月期と見ていた民間航空エンジン事業の業績面での底は、2019 年 3 月期になることが濃厚であり、その影響を最小限にすべく、コストダウン策を鋭意進めている。

5. 今回の業績予想修正の中で、特別利益を想定しているのか？

- ・ 特別損益の追加計上は想定していない。

以上